

解説

「今年最大の珍妙な映画」という折り紙がついたこの作品は、「70年代の喜劇として最高の作品」とフランスの「ヌオーボ・シネモンド」誌は絶賛している。この物語は、フーテン（リンゴ・スター）を息子にした億万長者（ピーター・セラーズ）の二人が巻き起す大ブラック・コメディ。金で幸福を掴めるか、自由とはいったい何かを異端作家テリー・サザーン（先に「イージー・ライガー」「キャンディ」）の反体制喜劇を通して強烈に叩きつけた異色作。

それはまさに二〇世紀の終りを告げ、新しい世紀の曙光を告げるニュー・シネマと言える。出演は彼ら二人の他に「荒野の七人」のユル・プリンナー、「ローズマリーの赤ちゃん」の吸血鬼「の監督で知られるロマン・ポランスキー、「ミクロの決死圏」の超グラマー、ラクエル・ウェルチ、「アラモ」のローレンス・ハーベ、「砲艦サン・パブロ」のリチャード・アッテンボロー、「ジュリアス・シーザー」のクリストファー・リールら豪華な顔合せである。

製作は「華やかな情事」の新人デニス・オデール、監督は「007/カジノ・ロワイヤル」でユニークな演出を見せたジョセフ・マッゲラス、脚本をテリー・サザーン、監督マッゲラス、ピーター・セラーズが共同で担当、撮影を「2001年宇宙の旅」の名手ジョフレイ・アンスワース、音楽を「ローマで起った奇妙な出来事」の新鋭ケン・ソーン、主題歌「カム・アンド・ゲット・イット」の作曲をビートルズのポール・マッカートニー、歌をバッドフィンガーが唄っている。

（グラランド・フィルム製作。一九六九年度作品。1時間32分）

ストーリー

ロンドンのセント・ジェームズ・パーク。独身の大金持サー・ガイ・グラランドは、ある計画を実行すべく公園に向った。そこでフーテン青年に出逢い「俺の養子になってくれないか」と口説く。青年もガイの素晴らしい交換条件へ妥協と腐敗の社会を形成するエリート達を、すべての金で攻撃しよう、という奇抜なアイデアに魅せられてついに承諾。そしてここにグラランド・ジュニアの誕生となった。

まずその交換条件の第一弾——スタンフォード国立劇場に。シエークスピアの「ハムレット」が始まっていた。「生か死か：それが問題だ：」の名文句でハムレットが登場し、場内は静寂に包まれた。

その時突然、安っぽいストリップ音楽が鳴り、男性ストリップが始まった。衣服を脱ぎだすハムレット。破廉恥な芝居に上流貴族達は大混乱に落ち入った。

続いて新聞・TVニュースに次々奇妙な報道が流れた。

- 狩猟場でサー・ガイとジュニア達は一匹のカモを射つのに陸軍を出動させ、上流貴族達は大混乱
- 有名なクルフトのドッグ：ショーに黒人が黒ヒョウをつれて参加、上流夫人達は驚きのあまりに失神者相々
- ヘビー・ウェイト級のチャンピオン戦で白熱のパンチ戦どころかホモシーンを展開
- テムズ河——エリート中のエリート達のオックスフォード対ケンブリッジ定期ボートレースが買収され驚くべき混乱

二人は大きかりなトリック作戦を——「これに乗って週末を過ぎさな人はエリートでは決

■スタッフ■

製作.....デニス・オディール
監督.....ジョセフ・マッゲラス
原作.....テリー・サザーン
脚色.....リチャード・アッテンボロー
撮影.....ジョフレイ・アンスワース
音楽.....ポール・マッカートニー
主題歌作曲.....カム・アンド・ゲット・イット
主題歌.....バッドフィンガー
(東芝アップル)

■キャスト■

グラランド・ジュニア.....リンゴ・スター
サー・ガイ・グラランド.....ピーター・セラーズ
ある女.....ユル・プリンナー
ある男.....ロマン・ポランスキー
女奴隷長.....ラクエル・ウェルチ
ハムレットのコーチ.....ロード・アッテンボロー
吸血鬼.....クリストファー・リール
クラウス船長.....ウィルフリッド・ハイド・ホワイト



してない」という広告が出され、英国からニューヨークに向って豪華船「マジック・クリスチャン号」が出航。次々と乗り込む国際的有名客（ジョン・レノン、小野洋子、オナシスとジャクリーン）と自認している連中。

その客船の中で起った出来事はすべてのエリート達を地にひきつりおろした。シージャックが現われ、吸血鬼やゴリラが暴れまくり船内は修羅場と化し、はては英国のドックに浮ぶハリボテの客船がこの「マジック・クリスチャン号」だったのだ。

最後の仕上げにかかったガイとジュニア——ロンドンの清掃バキューム・カーを集めて広場に作ったコエダメに汚物を注ぎ込み、呼びかけて「フリー・マネー！この中のお金をもって行って結構です！」。達巻きにハンカチでこらえていたロンドン市民達はやがて警官を含めて金を掴み取り始めた：身体をドブ入り汚物につけて。市民達を尻目に満足した表情でジェームズ・パークに戻るとサー・ガイは「ジュニア！お前が言うようにやっぱ自然の中が自由なんだ！」と寝袋に入り込んで眠りに入るのだった。すべての現代エリートぶっている連中をふりまわした快感に酔いながら.....

■撮影余話

◎マーガレット王女セツト訪問

マーガレット王女はロンドンのトウイックハム・スタジオに異例訪問した。そこで王女は過去の喜劇映画を見たり、リンゴ・スターやピーター・セラーズと談笑した。更に王女は、セラーズが暴食する「ジェ・エトワール」というフランス風レストランのシーンを見学した。

◎ピーター・セラーズは三、四年前にカリフォルニアのあるヒッピー達はこの小説を聖書と同じくらい価値あるものとし、大きな影響を与えている。セラーズはなぜこの小説を気に入ったかと言うと、主人公サー・ガイの生き方に共鳴したからに他ならない。

この映画について語る主演者と監督リンゴ・スター「ぼくは「ビートルズ」のメンバーの一人だが、昔から映画に興味を持っていた。前作「キャンディ」と同様、映画のもとになったのはテリー・サザーンの小説だ。彼のテーマとする社会に対する諷刺、これに共鳴したから出演したのだ。これからはもっと映画出演をしたいが、いい作品でなければ出ないつもりだ」

ピーター・セラーズ「この映画はある意味で、ロシア人が英語でビートルズの歌を唄っているようなものだ。私の過去の世代にはなかった世界の共存と団結をこの映画で楽しく見せたかった。監督ジョセフ・マッゲラス「主人公の二人はこの世の中の一匹狼である。アナキスト（無政府主義者）でさえあるのだ。彼らは反社会的な人間であると共にエキセントリック（気まぐれ）な人間でもある。更に私はこの映画の中で、妥協とか俗物をすべて排除し、今までの映画にはなかった新しく強烈な爆弾的なものを描こうとした。」



カラー作品

マジッククリスチャン

スター／ピーター・セラーズ／ユル・プリンナー
キャスト／ロマン・ポランスキー／ラクエル・ウェルチ／ローレンス・ハーベ